

蒼天句会

毎月第二木曜日午後一時から
於 美浜公民館

講師	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四
秋麗や木にも石にも神やどり 白露を育ててをらむ夜の山気	早春の秋田やロシア文字の船 補聴器に少年の日の蟬鳴けり	熱戦に負けないエール夏の雲 聞き取れぬ防災無線いわし雲	雨上がり匂いし土の夏近し 餌撒して湧き集まれる寒雀	京の町薨の波と鰯雲 鰯雲シャークのように行くジャンボ	お神楽の笛艶増して夜の秋 雨上り沓脱石の螢かな	鰯雲故郷の空の広さかな 大和路は仏半眼山笑ふ	浮き沈み無我の旅ゆく水くらげ 幻聴の進軍ラッパ蟬の殻	列島は水のまほろば滝の音 鰯雲薨の波を包み込む	薫風や畳に積みし古書の山 網を干す浜に広がる鰯雲	のぞみ号黄砂の雲のかかる富士 風薫る施設を訪うや姉笑みて	九十九折花背峠の春遅し 京菓子の甘味はんなり春兆す	叢雲のレースに透くる盆の月 遠雷に入江の小舟見え隠れ	肺葉の奥へ緑が充ちてくる 砥ぎあげし出刃の切つ先涼新た	六月の風はブルーや紫雲木 少年のこころを今も鱗雲
明海	高洲	舞浜	入船	美浜	入船	美浜	高洲	入船	美浜	美浜	北栄	日の出	日の出	入船
栗原公子	北洋一	上野賢一	菅隆彦	三浦詔子	近藤信江	川上ムツミ	田野辺隆男	新井婦紗子	江戸繁一	和田久恵	柴鎮夫	佐々木静江	外園重子	大西孝志